



今回の紙面

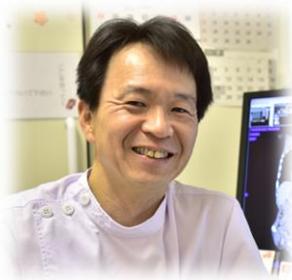
- ◆地域医療最前線 NO. 63 《鈴木賢二 院長》◆看護師さんのページ NO. 43 《岩崎良子 看護師》
- ◆研修医のページ NO. 46 《落合諒也 先生》◆夏季地域医療実習報告会
- ◆中学・高校生への働きかけ ◆しまね地域医療の会 ◆自治医科大学説明会



鬼の舌震(奥出雲町)

町立奥出雲病院

院長 鈴木 賢二



仁多郡奥出雲町は、島根県東部の松江市と出雲市を結ぶ線を逆正三角形の底辺と



した、南側の頂点に位置する中山間地域にあります。2005年に仁多町と横田町が合併して誕生しました。仁多の地名の由来は、古く『出雲国風土記』の中で「是は爾多

(にた)しき小国なり」、つまり潤いがあつて肥えている場所として語られるように、古くから土壌が肥沃な土地であつたからとされています。起伏の緩やかな山地の間に盆地が開け、人口は約1万3千5百人で高齢化の進む町です。

奥出雲町の魅力をいくつか紹介しましょう。まず、豊かな自然。桜、イチ



NO. 63

ヨウなど木々が豊かで水もきれい、外に出るだけで人間性を回復させてくれる、そういう空気で満ちています。地元の方は優しく思いやりがあり、都市で見られるような「モンスター患者」はまずいません。食で有名なものは何と言っても仁多米でしょう。きれいな



水と自然に育まれて生まれるお米は最高の味で、当院の病院食にも使われています。このお米を食べ慣れると、他のお米はもう

食べられません。そしてお酒。これもやはり、おいしい水と自然環境のなせる技でしょう。神の国から生まれるこのお酒は、気のおけない仲間との食事や、職場の集まりの席には欠かせません。現在では唯一、砂鉄から玉鋼を作り、日本刀の原料を供給するたたら製鉄も有名です。

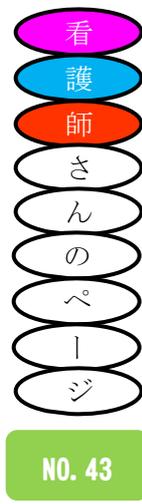
こんな奥出雲町にある唯一の病院が町立奥出雲病院です。内科、外科、整形外科、小児科の常勤医合計6名の少人数で、また退職された産婦人科の先生に引き続き勤務していただくなど、地域に密着した医療と専門的な医療を両立して行っています。地域に密着した医療としては通常の common disease

に加えて、高齢者の急性期から慢性期疾患を外来、入院、訪問で受け持ち、また小児科一般診療、分娩を中心とする周産期医療を行っています。専門的な医療としては糖尿病、がんの手術及び薬物療法が中心です。その他、島根大学病院から内科の各専門診療科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科の外來診療の支援を受けています。

私は地域で医療をする意義について考え続けています。それは最終的には人間と生活に密着した医療を行うという点に尽きます。言うまでもなく医療を受ける患者さんは、地域で生活をしている一人の人間です。病気だけを診るのではなく、人間を、生活をともに見ることにこそ、地域医療を行う意義とやりがいがあります。常に患者さんの立場に立ち、生活に思いをめぐらせる。これこそが医療の原点であり、患者さんに寄り添った医療を行うべく日々がんばっています。

医療費抑制政策がますます強まり、医療を取り巻く環境は厳しさを増しています。その中でも地域の皆さんが安心して暮らせる医療を提供するにはどうすればいいのか、これを考えながら実践することこそ、ここで働く喜びであると感じています。

今後は地域と一体となり、医療・介護・福祉の体制整備に取り組んでいくとともに、「奥出雲病院ならではの新たな特徴」を創り出していこうという意気込みで、地域医療に取り組んで参ります。共に働く同士をぜひお待ちしております。



公益社団法人 益田市医師会立

益田地域医療センター医師会病院

感染管理認定看護師 岩崎 良子

益田地域医療センターは、病床数343床（一般病棟106床、地域包括ケア病棟57床、医療療養病棟44床、介護療養病棟44床、回復期リハビリテーション病棟44床、特殊疾患病棟48床）の病院です。併設施設として、益田市立介護老人保健施設にさき苑、訪問看護ステーション、ホームヘルプ事業所、居宅介護事業所、在宅介護支援センターがあります。

私は、平成26年7月に感染管理認定看護師の資格を取得して、感染対策室で専従として勤務しています。当院の認定看護師としては第1号でしたが、その後もう一人増え、現在2名の認定

看護師がおります。認定看護師には21分野あり、私は細菌やウイルスに興味があったので「感染管理」を選びました。資格を取得する際には、病院からの支援もあり、たくさん仲間とともに学びを得ることができました。

認定看護師の研修期間は6ヶ月で、その間、職場を離れて学生生活を送りました。毎日講義を受け、実習にも行きました。研修中は試験やレポートなどもあり、ゆつくりする暇もなく、今思えば人生で一番大変な6ヶ月だったように思います。そんな中でも、感染管理認定看護師という同じ目標に向かっていくたくさんの仲間と先生に支えられながら、研修することができました。研修中は感染管理の理想を描き、自分の病院がこうなったらいいなど考えながらプログラムを作成しました。しかし、実際に資格を取得して病院で感染管理に携わると理想どおりにはいかないことばかりでした。病院には感染対策室を設置していただき、感染管理に専従で仕事ができる環境を整えていただきましたが、認定看護師の役割を他の職員には周知されていない中、一人で仕事をしなければならぬ状況であったので、自分の居場所やするべきことを見失いそうになることがあり

ました。

今は少しずつですが、病院内での研修会を開催し、外部からの研修依頼にも対応させていただいています。また、病院内にICT（感染対策チーム）が設置されたことで、一人で悩まず相談できるような体制になってきました。さらに、島根県内で感染管理認定看護師として働いておられる方々とのネットワークも私の支えとなっています。同じ立場の方に相談できることは、何より心強いです。



ICT（感染対策チーム）のメンバー
前列右から2番目が筆者

私は感染管理認定看護師として未熟な部分がたくさんありますが、今後も患者様、職員、そして病院のためを考えたしながら、もっと頼れるしつかりした存在になれるよう、自己研鑽を積んでいきたいと思っています。



松江市立病院

1年目研修医

落合 諒也



月日が経つのは本当に早いもので、私が医師として働き始めてから半年が過ぎ

ようとしています。患者さんと接する中で毎日新しい気付きや疑問が出てくるため、その全てにしつかりと向き合っていくと一日があつという間に終わってしまうように感じます。

さて、松江市立病院では2年次の先輩方が7名、1年次が8名の合計15名の初期研修医が共に研修をしています。その背中から多くの事を教えて下さるエネルギーな先輩方と、とても仲が良く気軽に相談し合ったり教え合ったりできる同期に巡り会えたことは、研修生活において特に恵まれたことと感じています。また、上級医の先生による各種のレクチャーでは診断や初期対応など多くの知識を得ることができ、

研修医が交代で発表する毎週金曜日の朝のカンファレンスにおいては、研修医全員と指導医の先生方とで様々な症例について検討することで発表の練習にもつながっています。また、当院の最上階にある研修室でいつでもエコー検査などの練習ができるなど、研修しやすい環境が整っていることもとても有り難いことです。

この半年間、医師として実際に医療に関わってみて学生の頃と決定的に違うと感じた点は、自分が患者さんに対して行うことについて責任を負っているのだということです。研修医とは言え、患者さんにしてみれば「医師」であることに変わりありません。検査結果や薬の処方などを説明する際には一つ一つの言葉を選びながら出来る限り患者さんのご意思に添えるよう配慮しますし、侵襲の大きな処置を行う際には患者さんに苦しみを与えているのだという自覚を持って一回一回の経験を大切にしています。

当院には多くの学生さんが見学や実習に来てくれて、あと半年もすれば自分も先輩になるのだという実感が少しずつ出てきています。この半年間でいったいどれだけ成長できているのかは分かりませんが、あと半年経って後輩

たちを迎える頃には、今の2年次の先輩方に少しでも近づけるよう毎日の診療と学びを積み重ね、教えて頂いたことを少しでも多く後輩たちに伝えてあげたいと思います。

専門医制度が大きく変わろうとしている激動の時代であり、自分の進路に不安の残る日々ですが、どんな道に進んでも経験が活かせる充実した研修にできるよう励みたいと思います。

～まち紹介～



松江どうり行列(松江市)

夏季地域医療実習報告会

地域医療実習は、島根大学地域枠等の医学生や本県から奨学金の貸与を受けた医学生、本県出身の自治医科大学の医学生などが中山間地や離島の医療機関等で実習を行うもので、平成14年から実施しています。

今年度の夏季地域医療実習は、8月16日から8月18日(隠岐島前地区は8月24日から8月26日)にかけて県

内7地区で行われ、島根大学と自治医科大学から合わせて37名の医学生が参加しました。

8月19日に島根大学医学部にて行われた実習報告会は、参加した学生が交流を深めながら意見交換できるようにワールドカフェ形式で進められました。



「実習で印象に残った体験」「島根の地域医療の良いところ・課題」「島根の地域医療の改善策」という3つのテーマが用意され、医学生からは『実習先で地域の魅力に触れ、この魅力をもつとアピールすべき』という意見等が出ました。今後も地域医療実習を通して、

地域医療を肌で感じてもらい、地域に興味を持つ学生がますます増えることを期待しています。

最後になりましたが、夏季地域医療

実習の実施に際しまして、島根大学医学部をはじめ、医療機関や保健所等たくさんの方々にご尽力いただきましたことに、厚くお礼申し上げます。

【医療政策課 富田】

中学・高校生への働きかけ

将来の島根の医療を支える人材を育成するため、職業や進路選択の参考になるよう、県内の学校や医療機関の協力のもと、中・高校生を対象に医療現場体験セミナーを実施しました。

夢実現進学チャレンジセミナーは、医学部や難関大学への進学を目指す高校2年生を対象にした3泊4日の勉強合宿です。合宿3日目には医学部進学を目指す27名が島根大学医学部、出雲市立総合医療センターで手術見学や医療体験を行い、医学科の模擬講義を受講しました。

高校生地域医療現場体験セミナーは、春季・夏季・冬季の年3回実施しており、今夏は医師を目指す県内31名の高校生が受講しました。

メデイカル・アカデミーは医療従事者を目指す中学生を対象にした2泊3日の医療現場体験合宿です。今年度は県内各地から集まった38名の中学生

が、医療機関での看護体験や蘇生実習、カエルの解剖などを行いました。



中学生地域

医療現場体験事業

業は毎年夏季に実施しており、今年度は県内89名の中学生が県内14医療機関で手術見学や看護体験を行いました。

参加した中・高校生からは『実際の医療現場や職務内容を知ること、より医療従事者への憧れが強まった』『勉強へのモチベーションも上がった』などの感想が数多く聴かれ、地域医療を支える医療従事者への興味や関心を高めることができたと感じています。

【医療政策課 三木】

しまね地域医療の会

7月16日(土)に「平成28年度第1回しまね地域医療の会」を出雲市医師会館で隠岐病院、隠岐島前病院をテレビ会議で結び開催しました。この会は、自治医科大学卒業医師や県内で地域医療を支える医師等の情報交換・意見交換の場として、平成16年から毎年

2回開催しています。

県内各地域からの活動報告があり、また、来賓としてお招きした自治医科大学、公益社団法人地域医療振興協会からは近況などをお話していただきました。



この会が発足して13年目を迎えました。毎回多くの話題や意見が出され、より充実した会となっております。その後の懇親会でも話題は尽きず、会員相互の親交がますます深まりました。

【医療政策課 川上(悟)】

自治医科大学説明会

平成28年度の自治医科大学の大学説明会を県内4会場(松江、出雲、浜田、益田)で開催しました。

今年の説明会には、高校生やその保

護者、高校教諭に加えて中学生の姿もあり、近年では最も多い90名が参加されました。自治医科大学の特色あるカリキュラムなどの説明や、地元出身の卒業医師・在学生の体験談を直接聞くことができる貴重な機会でもあり、皆さん熱心に耳を傾けておられました。



自治医科大学は地域医療を担う総合

医の養成を主な目的に設立された大学で、卒業医師は一定期間出身県に戻り、地域医療に従事します。現在、島根県出身の医

学生は18名在籍しています。島根県出身の卒業医師もこれまでに79名となり、義務期間が終了した後も半数以上が県内の医療機関等で活躍されています。

しかしながら、近年は自治医科大学を受験する方が減少傾向にあり、島根県からの志願者も少ないのが現状です。この説明会をきっかけに、地元しまねの地域医療に関心を持っていただければ幸いです。

【医療政策課 川上(悟)】

島根県で勤務していただける方を紹介してください

友人・知人に島根県での勤務を希望される医師がおられましたら、是非ご紹介ください。ご紹介いただいた先生には、医療機関の情報等を提供し、U・Iターンを支援します。

医師募集・地域医療視察ツアー参加者募集

島根県は県内で勤務いただける医師を求めています。全国どこへでも専任の医師が出張し、具体的な相談に応じます。また、地域医療の視察ツアー(県負担)を実施しています。お気軽にお問い合わせください。

「赤ひげバンク」の登録者のみなさんへ

住所等に変更があった場合は、メールでお知らせ願います。

携帯からの問い合わせはこちら

〒690-8501 松江市殿町1番地 島根県健康福祉部 医療政策課 医師確保対策室
TEL 0852-22-5693 FAX 0852-22-6040
E-Mail iryuu@pref.shimane.lg.jp
ホームページ: [島根の医師確保対策](#)



検索